

27 柳原惣門跡

神戸市兵庫区羽板通2-1

- ▶ 柳原蛭子神社と福海寺の間に西国街道がありました。この位置から兵庫の町に入るという意味で惣門(柳原惣門)がありました。西の柳原惣門に対して、東は湊口惣門がありました。



28 足利尊氏ゆかりの寺／福海寺

神戸市兵庫区西柳原町10-10

- ▶ 建武3年(1336)、京都で合戦に敗れた足利尊氏は、丹波路を通って播州三草より兵庫まで敗走しました。新田義貞軍の兵士に追われ、急遽福海寺の前身である針が崎観音堂の壇下に身を潜めました。辛うじて一命を取りとめた尊氏は、兵庫を出航し九州に向かい、西国の水軍を率いて兵庫の地に再上陸を果たします。そのとき軍船に観世音菩薩名号の帆を張っていました。湊川の合戦で楠木正成に勝利しました。室町幕府を開いた尊氏は、康永3年(1344)一命を取りとめることとなった「針が崎観音堂」への報恩と、彼我戦没者供養、祝国安民祈願の為に、京都正伝寺より在庵圓有(ざいあんえんゆう)禅師を拝請し福海寺を開きました。福海寺は正式には「福海興国禅寺」と言います。



29 平清盛遺愛の時雨之松碑／福海寺

神戸市兵庫区西柳原町10-10

- ▶ 平清盛遺愛の時雨の松は神戸市兵庫区三川口町にありました。青葉から玉露を垂らし、霊験あらたかであったといえます。同所に在った兵庫最初の庚申堂と共に清盛の信仰を受けておりましたが、太平洋戦争の火災で枯れてしまい、残っていた切り株も阪神大震災で無くなってしまいました。現在は石碑のみが福海寺にあります。



30 柳原花街跡

神戸市兵庫区西柳原町6あたり

- ▶ 柳原惣門から兵庫に入った街道沿いに柳原花街がありました。多くの志士たちがこの花街に足を運んだと伝わっています。坂本龍馬も足を運んだと伝わっており、そのほか頼 山陽、頼 三樹三郎、西郷吉之助、大久保一蔵、桂 小五郎、高杉晋作、後藤象二郎 等々の名が挙げられます。馴染みのあった女性の名が伝わっているのは、桂 小五郎とお蔦、坂本龍馬と小吉。特に、桂 小五郎とお蔦との間柄が有名です。禁門の変で敗れた後、桂は京都を脱出し、出石に潜伏します。お蔦は、突然姿を消した桂を心配し悲しみました。結局、お蔦は桂との再会が果たせず、早々に敢えない最期を遂げてしまいます。人づてにこのことを聞いた桂は、兵庫に来て、決して柳原には足を運ばなかったといいます。



柳原惣門跡から東方面を見た風景
左側に花街があったと思われる



東側より柳原惣門跡方面を見た風景
右側に花街があったと思われる



桂 小五郎

31 後醍醐天皇駐蹕之處／福厳寺

神戸市兵庫区門口町3-4

- ▶ 後醍醐天皇は、元弘 2年(1332)、鎌倉幕府打倒を目的とした「元弘の変」の失敗で隠岐島へ流されました。しかし、不屈の精神で元弘 3年(1333)、隠岐島を脱出し京へ還幸することになりました。その途中、福厳寺 に立ち寄り、楠木正成、赤松円心の出迎えを受け、新田義貞による鎌倉幕府滅亡の報せを受けています。なお、この 福厳寺 は元は 会下山 の麓にあったそうです。



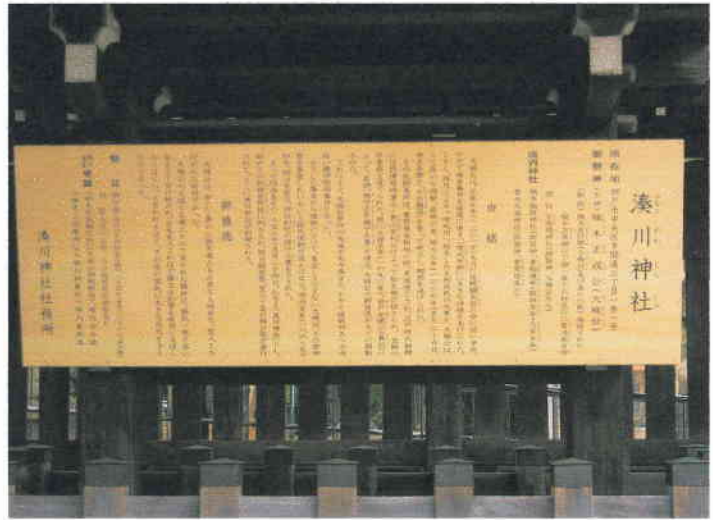
32 湊川神社

神戸市中央区多聞通3-1-1

▶ 楠木正成は、延元元年(1336)5月25日、湊川で足利尊氏と戦い殉節しました(湊川の戦い)。その墓地は長らく荒廃していましたが、元禄5年(1692)になり徳川光圀が「嗚呼忠臣楠子之墓」の石碑を建立しました。

以来、水戸学者らによって楠木正成は理想の勤皇家として崇敬されました。

幕末には維新志士らによって祭祀されるようになり、彼らの熱烈な崇敬心は国家による楠社創建を求めるに至ります。慶応3年(1867)に尾張藩主徳川慶勝により楠社創立の建白がなされ、明治元年(1868)、明治天皇は大楠公の忠義を後世に伝えるため、神社を創建するよう命じ、明治2年(1869)、墓所・殉節地を含む7,232坪(現在約7,680坪)を境内地と定め、明治5年(1872)5月24日、湊川神社が創建されました。



33 楠木正成戦没之地／湊川神社

神戸市中央区多聞通3-1-1

▶ 延元元年(1336)5月25日、楠木正成は「湊川の合戦」で足利軍と16度にわたる激しい合戦を交えますが、多勢に無勢で味方はわずか73人にまでになってしまいます。もはやこれまでと覚悟した正成は、この地にあった民家に入り、「七生報国」を誓って弟の正季と刺し違えました。

湊川神社の表門から入り、一番左奥が終焉の地にあたります。(終焉地は別の説もあり)



この場所が楠木正成戦没地にあたる

